

学会，研究会での研究発表

◆ 研究発表 ◆

「内視鏡検査の週及的検討－胃 X 線検査の立場から－」

第 42 回日本消化器集団検診学会総会 (2003 年 5 月・金沢)
富樫聖子，佐藤清二，佐藤重之，峯岸純一，関根菜穂子，
福原幸一，瀧野勝彦，山岸善九郎，原島三郎，馬場保昌
(早期胃がん検診協会)

(はじめに) 現在，X 線検査の診断成績の評価は，最終的な検査である内視鏡診断特に生検組織診断によってなされている。本研究の目的は，胃集検における内視鏡検査の問題点を明確にすることにある。

(対象ならびに方法) 1997～2001 年度の 5 年間に，東京都予防医学協会の胃集検で発見された逐年検診胃がん 117 例のうち，過去 3 年以内に内視鏡検査を受けていた 26 例 (22.2%) を対象とした。発見がんの特徴を求めた。

(結果) 逐年発見胃がん 117 例中，早期がん率は 84.6% (99) であった。過去 3 年以内に内視鏡検査を受けていた 22.2% (26) のうち，早期がん 22 例 (84.6%)，進行がん 4 例 (15.4%) であった。週及的内視鏡検査年は 1 年前 13 例，2 年前 10 例，3 年前 4 例である。占拠部位は U 領域 19.2% (5)，M 領域 57.7% (15)，L 領域 23.1% (6)，壁在部位は前壁 30.8% (8)，後壁 23.1% (6)，小彎 38.5% (10)，大彎 7.7% (2) であった。大きさは 10mm 以下 34.6% (9)，20mm 以下 23.1% (6)，21mm 以上 42.3% (11) であった。組織型は未分化型がん 19.2% (5)，分化型がん 80.8% (21) であった。同年，同時期に受けた X 線検査は 25 例であり，X 線検査で同部位指摘は 12 例 (48.0%)，他部位指摘は 13 例 (52.0%) であった。

(まとめ) 過去 3 年以内に内視鏡検査を受けていた例の大半は 2 年以内 (92.0%) に内視鏡検査を行っていた。前回内視鏡検査時の X 線的な同部位指摘は 48.0% (12) であった。ほとんどが早期がん (84.6%) であったが，進行がんも 4 例含まれていた。占拠部位は M 領域 (64.0%)，壁在部位は小彎 (40.0%)，組織型は分化型 (80.0%) に多かった。大きさには明らかな差は見られなかった。

「学校心臓 2 次検診の心臓超音波検査で発見された心疾患」
第 28 回日本超音波検査学会 (2003 年 5 月・名古屋)
神宮字広明，大平 清，藤井かおり，矢島晴美，北尾智子，
鮎沢 衛 (日本大学医学部小児科)

2 次検診での心臓での心臓超音波検査は心疾患の否定のために行うことが多いが新たに先天性心疾患や心筋症が発見されている。心臓超音波検査を行い，発見された心疾患の種類および頻度について発表した。1999～2002 年度の 4 年間で 1,748 名に心臓超音波検査を行い，発見されたのは 82 人であった。発見された心疾患は小学 1 年生では先天性疾患が 84.8% であった。中学生では先天性心疾患が 65.6% と多いが，肥大型心筋症なども発見されている。高校生は先天性心疾患が 52.9% とほぼ半数になり後天性心疾患の占める割合が大きくなっていった。

第 9 回国際先天性代謝異常症会議 (ICIAM2003) (2003 年 9 月・ブリスベン)

北川照男，石毛信之，鈴木 健，大和田操 (駿河台日大病院小児科)，衛藤義勝 (東京慈恵会医科大学小児科)，大橋十也 (同左)，Mills K，Winchester B (Dept. of Biochemistry, Institute of Child Health, London)，Keutzer J (Genzyme Corp, Boston)

ファブリー病は数十種類ある糖脂質代謝異常症の一つで，GL-3 (糖脂質の一種) の代謝酵素 α -ガラクトシダーゼ A が先天的に欠損し，皮膚，血管壁，腎臓，心臓，脳などの細胞内に GL-3 が蓄積して各臓器の重篤な障害をもたらす。心不全，腎不全や脳梗塞等に至る予後不良な疾患である。近年，本症に対する酵素補充療法が開発され，心不全や腎不全等を予防できるようになったので，その早期診断法が開発が重要となり，われわれもこれについて研究してきた。

これまで尿中 GL-3 の測定には尿沈渣を用いており，定量するまでに煩雑な前処理が必要であったが，2002 年にタンデム質量分析計を応用した全尿中 GL-3 の簡便な定量法が英国の Mills らによって報告され，われわれは彼らの方法を用いて発症前の本症スクリーニング法を確立す

るための基礎的検討を行った。その結果、スクリーニング時期については今後の検討を要するが、本法は煩雑な前処理をすることなく、全尿を用いて簡便かつ精度よくGL-3を定量できることが確認され、有用なスクリーニング検査法であると結論された。

「子宮内膜細胞診－疑陽性症例の精度向上をめざして－」
第46回細胞検査士教育セミナー（2003年9月・奈良）

楠 奈々子

子宮内膜はホルモン環境下でさまざまな組織形態を示し、細胞診にもその多彩な組織像が反映される。また、細胞採取時の手技や器具等により、細胞量や細胞像が異なることもある。そのため、良性と増殖性病変との鑑別が困難な場合があり、本会では良性変化と想定される場合でも、その異型度などにより疑陽性と判定しているのが現状である。

そこで、疑陽性判定の精度向上を目的に、良性と内膜増殖症を中心に比較検討を行った。

1998～2001年度の4年間で疑陽性と判定されて組織診で確認が可能であった症例の中から、良性60例と内膜増殖症50例を対象とした。検討項目は、異常細胞集塊の有無・種類および出現量、核所見、化生様変化の出現の有無、間質細胞の出現状態などでそれらを比較した。さらに、子宮体がん検診における問題点についても、若干の検討を試みた。

「神経芽腫スクリーニングにおける採尿濾紙の大きさと採尿量に関する基礎的検討」

第31回日本マス・スクリーニング学会（2003年10月・熊本）
間下充子，加藤ゆかり，穴澤 昭，鈴木 健，越永従道（日本大学医学部第一外科），福澤正洋（同左），大和田 操（日本大学医学部小児科）

神経芽腫マス・スクリーニング（NBマス）では、検体として生尿と尿濾紙が使用されている。現在、標準化の一環として採尿用具と採尿方法の統一が進められており、日本マス・スクリーニング学会技術部会では40mm×80mm（Aタイプ）と40mm×50mm（Bタイプ）の濾紙を試案し作製した。今回この採尿用の濾紙の統一に関する方向性をデータ面から探るために、濾紙の大きさと尿付着部分の形状・大きさの違いが測定値にどのように影響するかを検討した。スポット尿濾紙と全面尿濾紙の測定

値をクレアチニン濃度別、パンチ部位別に比較した結果、いずれも全面尿濾紙でバラツキが少ないことがわかった。本学会技術部会が作成中の“NBマスの検体管理に関するガイドライン”では、採尿は間接・滴下法で行うことになっているが、滴下法で尿を濾紙にしみ込ませるときの形状やその大きさについては規定されていない。しかし、今回の検討において、スポット尿濾紙と全面尿濾紙ではVMA/CrとHVA/Crの測定値に差が認められたため、尿を濾紙に滴下するときの量的な統一も必要であることが示唆された。すなわち、採尿は間接・滴下法で行い、滴下法における尿量は濾紙全体に広がる量とすることが検査精度的に有利と考えられた。

「新生児マス・スクリーニングにおいてクレチン症以外の項目の再採血検体でTSHを測定する意義の検討」

第31回日本マス・スクリーニング学会（2003年10月・熊本）
桜井恭子，原 淳，穴澤 昭，鈴木 健，杉原茂孝（東京女子医科大学第二病院），村田光範（東京女子医科大学）

1999～2002年の4年間に380,518件のスクリーニングを実施し、このうちクレチン症以外で再採血となった例は2,195件であった。その再採血検体のTSHを測定し、TSHがカットオフ値を超えた為31件がクレチン症の再採血依頼対象となった。その後の再採血検体でもカットオフ値を超えた為、15件が精密検査対象となった。この15件について出生体重、測定値、精査日齢等について解析した。その結果、副腎過形成症（CAH）の再採血もしくは再々採血検体からの精密検査対象が12件、チロジン血症の再採血から1件、メープルシロップ尿症の再採血から1件、ガラクトース血症の精密検査後のフォローからは1件であった。CAHからの例はほとんどが出生体重1,000g未満の低出生体重児であり平均精密検査日齢は41.9±21.7日であった。精査対象者の中には治療を必要とするクレチン症が含まれていたことから、未熟児の2回目採血の必要性確認されたと同時に、再採血検体すべてにTSHを測定する意義が確認された。

「成長期の骨評価値とPeak Height Velocityに関する検討」

第5回日本骨粗鬆症学会（2003年10月・福岡）
黒澤幸男，堀 ルミ，窪田 薫，玉沖弘美，工藤弘美，池田佐智子，雄鹿 薫，松本 勝，阿部勝己，浦 清，山内邦昭，杉森裕樹（聖マリアンナ医科大学予防医学教室）

磯辺啓二郎(千葉大学教育学部), 米元まり子(同左)

成長期の骨評価値の増加との関連要因として、身長
の最大年間成長率(PHV)・初経・運動習慣について検討
を行った。結果、骨評価値は男子ではPHVの2年後の16
歳で最も増加を示し、18歳まで増加を認めた。女子は、
PHVよりも初経初来後に有意に増加を示し、2次性徴が
骨量獲得に強く影響していると考えられた。また、運動
習慣について検討を行った結果、小学生と高校生の男女
とも運動習慣のある群は有意に高値を示した。今回の研
究結果から、身体発育と骨発育の時期に乖離があること
が示唆された。成長期の骨量増加は、Peak bone massに
関与するとされ、この時期の骨量増加および蓄積が最も
重要であると考えられる。

「喀痰細胞診における精度管理－中心型肺がん(セミナー
I)－」

第19回肺がん集検セミナー(2003年11月・東京)

杉山田隆男

1993～2002年の10年間に都内の住民、職域を対象と
し98,026件をYM蓄痰法による喀痰細胞診を実施し、原
発性発見肺がん例は扁平上皮がん31例、腺がん7例小細
胞がん1例、大細胞がん1例、計40例(10万比40.8)。扁
平上皮がん発見例中11例がI期がん例で、発見肺がんの
平均年齢は66.0歳であった。喀痰細胞診の判定基準の標
準化を維持するためには環境の整備と共に適正枚数、症
例検討、追跡調査の実施は重要である。

東京都では1982年老人保健法施行以来、外部精度管理
として細胞診検査を実施している登録衛生検査所に対し、
衛生局、医師会による行政面での指導監督が整備されて
いる。これに準じ策定された当会内部精度管理運営規定
に基づき、検査依頼から標本作製、試薬の管理、結果報
告まで検査業務の各過程に対し、管理を実施している。1
日鏡検枚数は、経験に応じて60枚以内。(C)判定でも(D・
E)とより高い判定の可能性がある場合、より正確な判定
を得るため必要に応じ再塗抹を実施。ダブルチェックは、
(C)以上、疑問症例(B・Cか迷う例)について5年以上経
験者が実施。また、科内勉強会、症例検討、追跡調査等
による判定基準の標準化に努め、診断精度を維持。

十分な精度管理を実施すれば現行の肺門部を中心とし
た肺がん検診でも効果が期待できる。

「新生児マス・スクリーニングにおいてクレチン症以外
の項目の再採血検体でTSHを測定する意義の検討」

第20回甲状腺病態生理研究会(2004年1月・東京)

桜井恭子, 原 淳, 穴澤 昭, 鈴木 健, 百溪尚子, 杉原
茂孝(東京女子医科大学第二病院), 村田光範(東京女子
医科大学)

今回、我々はクレチン症以外の項目で再採血になった
検体のTSHを測定しTSH高値でクレチン症の精密検査対
象となった例について検討した。1999～2002年の4年間
にクレチン症以外(先天性代謝異常, 副腎過形成症)で再
採血となった例は2,195件で、その中から15件が精密検査
対象となった。副腎過形成症再採血から精密検査対象と
なった12例のうち出生体重が1,000g未満の児の1例は急
激なTSH上昇が見られたが、その他はTSH値15 μ U/ml
から30 μ U/mlに上昇し精密検査対象となった。出生体重
が2,000g以上であった3例は出生から2,3週でTSHが上昇
し精密検査対象となった。先天性代謝異常検査の再採血
より精密検査依頼対象になったのは3例であった。この
ように、初回採血でTSH値が正常であっても、他の項目
で再採血依頼され、回収された検体で多くのTSH高値検
体を見出しクレチン症の精密検査対象となり、要治療で
あった例を経験した。副腎過形成症の再採血検体からの
精密検査対象例は出生体重1,000g未満の例がほとんどで
あった。先天性代謝異常等検査実施要綱に「2,000g以下の
低出生体重児は、原則的に生後5～7日で採血し、さらに
生後1ヵ月か体重が2,500gに達したかのうちどちらか早い
時点で再採血することが望ましい。」とされているが、他
項目の再採血検体全検体についてTSHを測定すること
でもTSH遅発上昇例を発見できることが確認された。

「ルミパルスフォルテによるTSH、FT₄基準値の検討」

第38回予防医学技術研究集会(2004年1月・鹿児島県)

豊岡千絵, 大野直子, 吉原律子, 山崎一徳, 斉藤友良,
大平咲子, 高山英二, 百溪尚子

内分泌系疾患の中で、甲状腺機能異常はもっとも頻度
の高い疾患である。現在、甲状腺機能の指標としてTSH、
FT₄の測定は広く用いられている。当検査室では、2001
年4月より全自動化学発光酵素免疫測定システムを導入し、
それに伴いTSH、FT₄の測定を開始した。以来、メー
カー推奨値を基準値として使用してきたが、今回、本会
の基準値を設定する目的で職員を対象にTSH、FT₄を測

定する機会を得たので報告した。

検討の結果、メーカー推奨値と若干の差が見られたが、検体の測定誤差(同時再現性)を考慮に入れて本会の基準範囲をTSH:0.497~4.499 μ U/ml, FT₄:0.71~1.59ng/dlと設定した。今回求めた基準値をメーカー推奨値との間に多少の差が見られたのは対象群の違いにあると思われる。ただ、FT₄値は測定方法や機種によって測定値を左右する因子が異なり、正しい機能を反映していないことを考慮に入れなければならない、経験を積んだ医師でないことと甲状腺機能が正常であるか否かの判定に誤りを生じる可能性があるため、TSH, FT₄値だけでなく臨床症状と併せて判定をする必要がある。

「学童腎臓病検診(3次検診)におけるUF-100測定データと暫定診断結果について」

第38回予防医学技術研究会(2004年1月・鹿児島)

田島 博, 木村陽子, 森 郁子, 岡本美恵子, 安住義典, 白石一美, 松本 勝, 伊藤機一(神奈川県立衛生短期大学), 金子一成(順天堂大学医学部小児科)

2001年度より学童腎臓病検診の尿沈渣検査に全自動尿中有形成成分分析装置UF-100(Sysmex社製;以下,UF-100)を導入し,尿沈渣検査が完全自動化になった。UF-100はフローサイトメトリーの技術を応用した分析装置で尿中有形成成分を定量的に分析ができ,さらに赤血球形態の分類が可能である。今回,UF-100の赤血球形態の分類ができることに着目し,2002年度学童腎臓病検診(3次検診)におけるUF-100測定データと暫定診断結果について検討したので報告した。

有所見者の糸球体由来型を示した比率と暫定診断結果との比較や,早朝尿と随時尿とに分けて糸球体由来型を示した比率と暫定診断結果との比較においては,腎炎,腎炎の疑いおよび血尿,微小血尿とも高率を示し,赤血球形態の分類のみでは,暫定診断の参考にするには困難であるように思われた。しかし,有所見者の早朝尿および随時尿における円柱の有無や,早朝尿および随時尿における糸球体由来型を示した有所見数内訳の円柱の有無においては,腎炎および腎炎の疑いでは高率を示したが,血尿および微小血尿では低率を示し,差が認められた。これらのことより赤血球形態の分類は,円柱など他の尿沈渣内容と総合的に判断することにより信頼性も増し暫定診断の参考になると思われた。

今後,UF-100の赤血球形態の分類と沈渣鏡検法での変形赤血球の判定との一致率や誤判別因子などの赤血球形態の分類に及ぼす影響などをさらに検討し,赤血球形態の分類が暫定診断に有用なものとなるように考えていきたい。

「会員制肺がん検診の成績-ヘリカルスキャンCT導入10年を経過して-」

第38回予防医学技術研究会(2004年1月・鹿児島)

牧野勝紀路

東京から肺がんをなくす会(以下ALCA)では,1975年より肺がんの早期発見を目的とした検診を実施し,1993年9月より喀痰細胞診・胸部X線に加え,精度の向上を図るためヘリカルスキャンCT(以下「CT」)を導入した。今回,ALCAの検診システムの紹介とCT導入後10年間の検診成績について報告した。

ALCAの会員数は,1,150人,平均年齢64.7歳

会員は,問診,喀痰細胞診,胸部X線直接撮影,CTの1次検診を年2回実施。2次検診対象者は,薄層スライスCT,喀痰細胞診の再検査が行われる。2次検診の結果,肺がんが疑われる場合胸部専門機関において,気管支鏡,肺針生検等の精密検査を実施。

1993年9月~2003年5月までの延べ受診者数16,590人中70例の肺がんが発見された。喀痰細胞診で肺門部扁平上皮がん6例,肺野部扁平上皮がん4例,腺がん2例,小細胞がん1例,計13例が発見され早期肺門部扁平上皮がん5例が喀痰細胞診のみで発見された。CTでは,64例の肺がんが発見され63例が肺野部,組織型は,腺がん45例,扁平上皮がん14例,小細胞がん2例,大細胞がん2例,腺扁平上皮がん1例であった。CTのみで異常が指摘された46例中43例がI期で,平均腫瘍径は10.6mmであった。発見症例は,CT導入前43例,導入後70例で,対10万比は,163・422と約2.5倍増となった。I期がんが53.5%から82.9%に増加し,肺野部肺がんの平均腫瘍径は,30.4mmから11.5mmと小さくなった。1期58例中56例(96.6%)が良好で,他の病期12例中9例が健在であった。発見時の検診回数を見ると,1期の肺がんはCT導入前後に関わらず,複数回検診で発見された症例が初回検診時発見症例より高率で,導入後においては84.6%であった。早期肺門部肺がんが喀痰細胞診のみで発見され有効性が示唆され,検診システムにCTを加えたことにより早期がんの発見率に向上が認められ,予後良好例も増加した。さらに検診の

向上を図るため2002年9月よりマルチスキャンCTを導入した。今後この成果について報告をしたい。

「聴覚障害者向け胃部X線検査情報提供システム(移動検診車用)の使用経験」

第32回日本総合健診学会大会(2004年1月・東京)

瀧野勝彦, 樋口義文, 永田善教, 峯岸純一, 山岸善九郎, 三輪祐一, 高橋英孝(昭和大学医学部衛生学教室), 内部こなぎ(日立製作所中央研究所), 佐川浩彦(同左)

(目的) 遠隔操作による胃部X線検査は, 術者と隔離された場所から音声で指示が与えられるため, 聴覚障害者には受診機会の少ない検査である。昭和大学と日立製作所が共同開発した胃部X線検査情報提供システムは聴覚障害者が健聴者と同様に検査を受けられる環境を提供するもので, 施設内での検診に使用されている。今回, このシステムを移動検診車に装着して間接撮影法にて実施したので, 健聴者対象の通常撮影の場合と比較して報告する。

(対象) 2003年9月に聴覚障害者4人(うち男1人)を対象として検診車に本システムを装着して間接X線検査を実施した。対象者の年齢は49~70歳で, 全員受診経験がある。

(方法) 本会で通常実施している間接撮影を行い, 検査時間, 透視時間, 撮影室に入る回数について比較を行った。検査時間は10~15分(平均12分)で, 通常時の3~5分(平均4分)と比較して3倍の時間を要した。透視時間は両者とも1.5~2.5分(平均2分), 入室回数も2~4回(平均2回)でほぼ同じであった。

(結語) 検査時間を要した理由として, 術者が本システムの操作に不慣れだったこと, 被験者がモニターの表示を読み取るまでにタイムラグが発生すること等が挙げられる。しかし, いずれも克服可能な課題である事から, 今後は障害者向け福祉施設などでの定期的な検診の実施や地域の胃がん検診を保健所などで実施することが可能になると期待される。

「マンモグラフィ併用検診の現状と問題点」

第38回予防医学技術研修会(2004年1月・鹿児島)

富樫聖子

本会では, 2002年度からマンモグラフィ併用乳がん検診を行っている。2002年度の検診成績を分析し検討を加えた。

総受診者数は1,933人, そのうち50歳以上は65%, 49

歳以下が34%であった。要精検率は14%, 精検受診率は53%, 発見乳がん8例, 0.41%, 早期がん率38%, 陽性反応的中率は3.0%であった。早期がん率が低かった原因として, マンモグラフィ検診初回受診者がほとんどであったこと, 精検受診率が低かったことが考えられる。撮影法別に検診成績を検討した。受診者数は, 1方向撮影が全体の57%, 2方向撮影は43%であった。乳がん発見率は1方向撮影が0.18%, 2方向撮影は0.72%, 陽性反応的中率はそれぞれ1.4%と4.7%であり, 2方向撮影のほうが良い成績であった。発見乳がん8例中, マンモグラフィだけで病変が指摘されていた症例は2例, 視触診だけで病変が指摘されていた症例は1例であった。視触診だけで病変が指摘された1例は, A領域, 大きさ20mmの硬がんであり, マンモグラフィ1方向撮影の症例であった。病変部位がA領域であったことからCCを加えた2方向撮影にすることによって, 病変の描出が可能になると思われた。

本会の問題点は, 読影医と撮影技師が不足していること, 作業スペースと検診スペースの確保にある。また, 検診成績の分析と検診精度を維持するには, 精密検査を行うことが必要であり, 追跡調査システムの充実が求められる。

「Cardio Visionを用いた動脈硬化指数ASIの測定」

第38回予防医学技術研究集会(2004年1月・鹿児島)

渡辺聡子, 油井敦子, 玉沖弘美, 澤田千夏, 堀ルミ, 田中孝枝, 雄鹿薫, 松本勝, 三輪祐一

近年, 生活習慣病の1次予防の考え方が重視され, 動脈硬化の1次予防検査として脈波伝播速度や頸動脈超音波検査などが注目されている。そのような中我々は某ユーザーの依頼によりアメリカのIMD社製の循環動態表示機能付血圧計Cardio Visionを用いて動脈硬化指数ASIを測定する機会を得たのでその報告を行った。1) Cardio Visionの紹介 2) 使用状況 3) 測定結果 血圧と同時に測定できるという簡便な検査であるため現在の健診にそのまま導入が可能と思われること, 新しい検査なので検討が必要であるが, ASIの特徴からさまざまな期待がもてること等を報告した。

◆関係学会、会議への役職員の参加ならびに協力◆

本会の事業推進に係る学会への参加状況は表に示したとおりである。

開催月	学会名 (開催地) <参加人数>	開催月	学会名 (開催地) <参加人数>
2003年4月	第12回韓国母子保健学会第1回韓国健康管理協会学術大会(韓国) <2>	2003年9月	第35回日本臨床検査自動化学会(横浜) <2>
4月	第55回日本産科婦人科学会総会・学術講演会(福岡) <1>	9月	第17回日本臨床細胞学会関東連合会総会・学術集会(静岡) <1>
4月	第76回日本産業衛生学会(山口) <10>	10月	第5回日本骨粗鬆症学会(福岡) <3>
4月	第59回日本放射線技術学会日本放射線撮影分科会総会学術大会(横浜) <2>	10月	第24回日本食品微生物学会(岡山) <1>
4月	第100回日本内科学会総会(福岡) <1>	10月	第31回日本マス・スクリーニング学会(熊本) <4>
4月	アボットフェア肝炎ウイルス検査の最前線(東京) <1>	10月	第42回日本臨床細胞学会秋期大会(横浜) <7>
5月	H.15年度日本総合健診医学会第1回健診情報処理研修会(東京) <1>	10月	第15回日本超音波医学会関東甲信越地区学術集会(東京) <10>
5月	第42回日本消化器集団検診学会総会(金沢) <3>	11月	日本甲状腺学会(名古屋) <1>
5月	第28回日本超音波検査学会(名古屋) <2>	11月	第11回日本産業ストレス学会(東京) <3>
5月	第44回日本臨床細胞学会総会(東京) <7>	11月	第46回日本先天代謝異常学会(鳥根) <2>
5月	第30回日本防菌学会年次大会(大阪) <1>	11月	第37回日本側弯症学会(千葉) <3>
5月	第44回日本臨床細胞学会総会(東京) <2>	11月	第13回日本乳癌検診学会(高崎) <8>
5月	第52回日本医学検査学会(埼玉) <3>	11月	第19回日本肺癌学会集団検診委員会肺癌集検セミナー(東京) <3>
6月	第22回ホルター心電図研究会(大宮) <2>	11月	第44回日本肺癌学会総会(東京) <2>
6月	第22回日本臨床細胞学会東京都支部総会学術集会(東京) <9>	11月	日本婦人科がん検診学会学術集会(東京) <2>
7月	第46回細胞検査士ワークショップ(東京) <1>	11月	第40回関東甲信越地区医学検査学会(横浜) <3>
7月	第11回日本がん検診・診断学会総会(東京) <3>	12月	第16回日本性感感染症学会学術大会(長野) <1>
7月	第38回日本小児腎臓病学会学術集会(東京) <2>	12月	第33回埼玉県医学検査学会(埼玉) <1>
7月	第39回日本小児循環器学会(神戸) <3>	2004年1月	第32回日本総合健診医学会大会(東京) <10>
7月	日本放射線技術学会放射線撮影分科会乳房撮影ガイドライン・精度管理研修会(松本) <1>	1月	第23回日本マス・スクリーニング学会技術部会研修会(札幌) <2>
7月	日本臨床化学会夏期セミナー(徳島) <1>	1月	第15回日本臨床微生物学会総会(つくば) <1>
7月	第46回日本臨床細胞学会・日本細胞診断学推進協会細胞検査士ワークショップ(東京) <11>	1月	第38回予防医学技術研究会(鹿児島) <1>
7月	東京都成人病従事者講習会(東京) <2>	1月	第5回東京都医学検査学会(東京) <1>
7月	第22回日本臨床化学会夏季セミナー(徳島) <1>	1月	第38回予防医学技術研究会(鹿児島) <1>
8月	第9回国際先天代謝異常学会2003(オーストラリア) <2>	2月	第19回日本環境感染学会総会(横浜) <1>
8月	第44回日本人間ドック学会(京都) <4>	2月	第26回日本消化器集団検診学会関東甲信越地区消化管造影技術研修会(千葉) <2>
8月	第6回KEMS慶応病院研究会(東京) <1>	2月	第6回学童腎臓病検診研究会(東京) <3>
9月	第14回リソゾーム病ワークショップ(チェコ) <1>	2月	アボットフェアPSAについて(東京) <2>
9月	第38回日本環境化学会講演会(水質基準の最新動向)(東京) <1>	2月	ベックマン・コールター・ヘマトロジー講演(東京) <1>
9月	222回47回日本産業衛生学会関東地方会例会見学会(つくば) <2>	3月	第68回日本循環器学会総会(東京) <1>
9月	第20回日本心電学会学術集会(東京) <3>	3月	第99回日本放射線技術学会東京部会技術フォーラム(東京) <3>

本会の事業推進に係る各種会議に出席した状況は表に示したとおりである。

開催月	会議名 (開催地) <参加人数>	開催月	会議名 (開催地) <参加人数>
2003年5月	厚労省がん克服戦略研究事業森山班胸部CT計算機診断支援会議(徳島) <2>	2003年11月	全衛連健診事後措置支援業務研究会(東京) <2>
5月	全衛連通常総会(東京) <3>	11月	H.15年度中央会関東甲信越地区会議(長野) <7>
8月	第1回中央会技術運営会議(東京) <6>	12月	H.15年度中央会経営セミナー(東京) <30>
9月	厚労省がん克服戦略研究事業森山班胸部CT計算機診断支援会議(徳島) <2>	2004年1月	厚労省がん研究助成金柿沼班「肺野型早期がんの診断及び治療法の開発に関する研究」(柏) <1>
10月	H.15年度中央会健康教育支部担当者会議(東京) <7>	1月	厚労省がん克服戦略研究事業森山班胸部CT計算機診断支援グループ会議(徳島) <2>
11月	H.15年度全衛連運営研究協議会(東京) <4>	3月	H.15年度中央会医師協議会(横浜) <3>

本会の事業推進に係る研修会、講習会への参加状況は表に示したとおりである。

開催月	研修会名 (開催地) <参加人数>	開催月	研修会名 (開催地) <参加人数>
2003年4月	SMBCコンサルティング新入社員ビジネスマナーと仕事の進め方(東京)<2>	2003年10月	日本作業環境測定協会作業環境測定士指定講習(二種)(東京)<1>
4月	第40回東京乳癌研究会(東京)<6>	10月	東京都臨床検査技師会公衆衛生研修会(東京)<2>
4月	第1回日本消化器内視鏡技師会看護委員会看護セミナー(東京)<1>	10月	東京都臨床検査技師会一般検査研修会(東京)<2>
4月	日本作業環境測定協会作業環境測定士指定講習(有機溶剤)(東京)<1>	11月	LH700シリーズ・カスタマートレーニング<1>
4月	中災防T H P実務向上研修会(トレーナー)(東京)<1>	11月	キャノン販売デジタル時代の眼底検査(東京)<23>
4月	尿検査フォーラム2003(東京)<6>	11月	第19回循環器情報処理研究会(東京)<19>
5月	第54回十三大都市学校保健協議会(福岡)<1>	11月	第53回全国学校保健研究大会第34回全国学校医大会(青森)<2>
5月	第54回全国水道研究発表会(名古屋)<1>	11月	H.15年度東京都簡易専用水道検査機関協議会簡水水研修会(東京)<6>
5月	都立産業技術研究所放射線安全取扱技術(東京)<1>	11月	H.15年度日本放射線技師会全国放射線技師総合学術大会(大阪)<1>
5月	第7回胸部CT検査研究会 読影セミナー(東京)<1>	11月	第76回中央会技術研修会(東京)<1>
6月	第16回神奈川乳房画像研究会(横浜)<4>	11月	栄研化学主催第7回OCユーザー会(東京)<6>
6月	島津製作所水質基準見直しのポイントと最新機器分析のテクニック(東京)<1>	11月	東京都臨床検査技師会一般検査研修会(東京)<2>
6月	東京都医師会健康スポーツ医学研修会(東京)<1>	11月	第19回肺癌検査セミナー(東京)<3>
6月	日本ダイオキス技術説明会(東京)<1>	12月	LH700シリーズ・カスタマートレーニング(東京)<1>
6月	H.15年度レンサ球菌感染症研究会第36回総会学術講習会(東京)<1>	12月	NPO入浴施設衛生管理推進協議会レジオネラ対策シンポジウム(東京)<2>
6月	全国給水衛生協会関東甲信越支部H15年度総会・研修会(新潟)<1>	12月	第18回神奈川乳房画像研究会(横浜)<2>
6月	全国給水衛生検査協会ISO9001認定取得に係る研修会(東京)<2>	12月	全国給水衛生検査協会新水質基準に伴う検査方法説明会(東京)<2>
6月	日本作業環境測定協会作業環境測定士指定講習(特定化学物質)(東京)<1>	12月	日本消防設備安全センター防火対象物点検資格者講習会(東京)
6月	THP実務向上研修会(心理・保健指導)ブラッシュアップセミナー(東京)<2>	12月	全衛連健康診断機関事務職員講習会(東京)<3>
6月	東京都臨床検査技師会一般検査合同研修会(東京)<1>	2004年1月	第14回H A C C P連絡協議会専門講師養成講習会(東京)<1>
6月	埼玉県臨床検査技師会一般検査研修会(東京)<1>	1月	H.15年度食品衛生指定検査機関協会業務管理研修会(東京)<1>
7月	(財)東京都保健医療公社健康事業課 胃がん検診X線撮影従事者講習会(東京)<1>	1月	日本作業環境測定協会指定講習共通科目(東京)<1>
7月	第4回Kodak画像品質・管理セミナー(東京)<3>	1月	第16回日本消化器画像診断情報研究会東京大会(東京)<1>
7月	H.15年度全国給水衛生検査協会総会(東京)<3>	1月	H.15年度食品衛生指定検査機関協会 残留農薬等分析法中間報告会(東京)<2>
7月	H.15年度先天性代謝異常症等検査技術研修会(東京)<3>	1月	全衛連VDT健康診断実務講習会(東京)<4>
7月	マンモグラフィ技術研修会(東京)<1>	1月	生活習慣改善支援セミナー THP(トレーナー)指導者登録更新講習(東京)<1>
7月	H.15年度全衛連総合精度管理事業に基づく講習会(東京)<2>	1月	第38回予防医学技術研究集会(東京)<1>
7月	東京都臨床検査技師会北部地区研修会(東京)<4>	2月	ジュールサイエンスHPLCセミナー前処理からHPLC分析におけるノウハウ(東京)<1>
7月	埼玉県臨床検査技師会一般検査研修会(東京)<1>	2月	日本健康運動指導士会健康運動指導者研究交流会(東京)<1>
8月	日本作業環境測定協会作業環境測定士第二種試験(東京)<1>	2月	日本作業環境測定協会統一精度管理講習会(東京)<2>
8月	第45回日本臨床細胞学会・日本細胞診断学推進協会細胞検査士教育セミナー(東京)<3>	2月	日本電子データBMシリーズ講習会(基礎コース)(東京)<1>
8月	H.15年度全衛連総合精度管理事業に基づく講習会(東京)<1>	2月	第13回日本乳癌画像研究会(京都)<1>
9月	第17回神奈川乳房画像研究会(横浜)<3>	2月	横河アナリティカルシステムズAgilent水道水分析セミナー(東京)<1>
9月	地方公務員安全衛生推進協会清掃事業安全衛生管理セミナー(東京)<1>	2月	第11回胸部CT検査研究会大会(柏)<1>
9月	第2回東京都多摩がん検診センター-東京埼玉合同MMG勉強会(東京)<1>	2月	全衛連生理機能検査専門講習会(東京)<1>
9月	第23回日本川崎病研究会(名古屋)<2>	2月	第77回中央会技術研修会(尿検査研修会)(東京)<1>
9月	全国給衛協 私立大環境保全協議会「学校におけるシックハウスと食の安全を考える」(幕張)<1>	2月	H.15年度中央会全国業務研修会(福島)<6>
9月	全国給水衛生検査協会「水道法改正に伴う水質・工程管理」(幕張)<1>	3月	衛生管理者講習会(東京)<1>
9月	日本作業環境測定協会作業環境測定士指定講習(二種)(東京)<1>	3月	第43回東京都健康健康安全研究センター感染症腸炎研究会総会(東京)<2>
9月	第45回日本臨床細胞学会・日本細胞診断学推進協会細胞検査士教育セミナー(東京)<1>	3月	第8回東京都健康健康安全研究センター腸管出血性大腸菌感染症シンポジウム(東京)<2>
9月	第21回中央会全国情報統計研修会(京都)<5>	3月	第3回東京都保健医療公社都成人病検診従事者講習会細胞診従事者講習会(東京)<14>
9月	東京都臨床検査技師会一般検査研修会(東京)<1>	3月	東京都保健医療公社都成人病検診従事者講習会子宮がん検診従事者講習会(東京)
10月	管理者(課長)基礎研修コース(神奈川)<3>	3月	H.15年度東京労働局作業環境測定機関連絡協議会(東京)<1>
10月	小児心音心電図自動解析委員会研究委員会(大阪)<2>	3月	日本作業環境測定協会作業環境測定精度管理におけるレベルアップ(千葉)<1>
10月	H.15年度都健康局地域保健部水道課水道係水道水検査機関の精度管理等の実施(東京)<1>	3月	日本食品衛生協会食品衛生特別講演会(東京)<1>
10月	日本電子データBMシリーズ講習会(東京)<1>	3月	日本電子データBMシリーズ講習会(設定コース)(東京)<1>
10月	第11回日本乳癌甲状腺超音波診断会議(宇都宮)<2>	3月	第3回乳房健康研究会ミニウォーク&ランフォープレストケア(立川)<1>
10月	H.15年度全国給水衛生検査協会関東甲信越支部飲料水検査技術研修会(東京)<1>	3月	食品衛生指定検査機関協会残留農薬および残留動物用薬品研修会(東京)<2>
10月	全国給水衛生検査協会簡易専用水道検査研究発表(京都)<1>	3月	全国給水衛生検査協会水道法改正(登録制度)説明会(東京)<3>

本会の事業推進に係る各種研修会、委員会等への協力は表に示したとおりである。

委員会・研究会等の名称	協力者・協力部門
日本学校保健会保健管理調査研究委員会委員，日本学校保健会心臓・腎臓等管理指導小委員会委員，東京都衛生局先天性代謝異常等委員会委員，東京都医師会学校健診検討委員会委員，東京都医師会心臓検診判定委員会委員，予防医学事業中央会事務局長，関東甲信越静学校心臓病予防研究会事務局長，関東学校保健学会幹事	山内 邦昭
全国労働衛生団体連合会臨床検査専門委員会委員，労働衛生機関評価制度評価指導員，東京都健康保持増進機関連絡協議会監事，東京都産業保健健康診断機関連絡協議会監事	山元 健治
日本予防医学事業中央会常任技術委員，日本臨床細胞学会評議員，日本臨床細胞学会教育委員会委員，日本臨床細胞学会細胞検査士資格更新委員会委員，日本臨床細胞学会東京都支部代表幹事，日本臨床細胞学会東京都細胞検査士会代表幹事，日本細胞診断学推進協合理事，日本細胞診断学推進協会細胞検査士会監事，東京都成人病検診管理指導協議会研修委員会委員，医療関連サービス振興会衛生検査所調査指導委員，北里大学医療衛生学部非常勤講師	武智 昭和
関東産業健康管理研究会幹事，健康開発科学研究会理事，中央労働災害防止協会「平成15年度事業場外資源の活用のあり方に関する，検討委員会調査検討部会」委員	三輪 祐一
日本臨床細胞学会東京都細胞検査士会幹事	杉山田隆男
日本臨床細胞学会東京都支部幹事・東京都細胞検査士会幹事	楠 奈々子 吉田志緒子
東京都臨床衛生検査技師会病理，細胞診研究班幹事	石山 功二
レンサ球菌感染症研究会幹事，食品衛生指定検査機関協議会技術検討委員会委員	天野 祐次
日本性感染症学会評議員	市瀬 正之
日本マス・スクリーニング学会評議員，予防医学事業中央会生化学小委員会委員	松本 勝
日本マス・スクリーニング学会理事・評議員	鈴木 健
日本マス・スクリーニング学会評議員，日本マス・スクリーニング学会技術部運営委員	穴沢 昭
予防医学事業中央会共有化専門委員会血液ワーキンググループリーダー，予防医学事業中央会教育研修専門委員会生化学検ワーキンググループ委員，全国労働衛生団体連合会参考値検討委員会委員	高山 英二
簡易専用水道検査技術委員会委員	堀井 聡史
東京都臨床衛生検査技師会学術部一般検査研究班幹事	安住 義克
日本超音波検査学会評議員・編集委員，日本総合健診学会超音波専門委員	大平 清
市谷超音波カンファレンス事務局	南澤 京子
東京胃会世話人	富樫 聖子
日本消化器集団検診学会関東甲信越地方会技術部世話人	福原 幸一 佐藤 清二
診療放射線技師東京都第3地区委員，日本放射線技術学会学術委員会「胸部CT検診マニュアルの作成班」班長，胸部CT検診研究会技術部委員	中村 義正
第112回日本細胞学会細胞検査士養成講習会の開催に協力，第45回日本細胞学会細胞検査士教育セミナーの開催に協力，第28回細胞診断学セミナーの開催に協力，日本臨床細胞学会指導医資格認定試験に協力，日本臨床細胞学会細胞検査士資格認定試験に協力	細胞病理診断科
フェニールケトン尿症親の会関東支部大会の開催に協力，平成15年度母子愛育会ガラクトース血症検査技術研修会で講義，平成15年度日本マス・スクリーニング初心者研修会で講義，平成15年度国際協力機構（JAICA）の「新生児・乳児マス・スクリーニング」コース研修で講義	小児スクリーニング科
第77回予防医学事業中央会尿検査技術研修会に協力，第25回国際寄生虫予防指導者セミナーの開催に協力	一般検査科
食品衛生指定機関研修会の開催に協力，感染症腸炎研究会の開催に協力	生活環境科
第63回日本消化器集団検診学会関東甲信越地方会の開催に協力，第26回日本消化器集団検診学会関東甲信越地方会消化管造影技術研修会の開催に協力，第36回日本消化器集団検診学会関東甲信越地方会放射線部会総会開催に協力	放射線科